



小島 智恵
議員
(拓政会)



問 2月、町内一部で停電が発生し避難所に避難する事態が起きた。冬期の停電は生命に直結するため電力の安定供給が肝要。過去には登別市や陸別町全域等で冬期の大規模停電が発生。今回の停電を教訓に生命・安全を守るため以下伺う。

- (1) 停電発生原因の把握、再発防止の要請。
- (2) 発電機、寒さ対策等の備品整備。
- (3) 停電時の避難所開設、地域との連携、弱者支援。
- (4) 新電力（PPS）を検討のようだが見解や方向性。

※PPSとは

既存の大手電力会社である一般電気事業者（北海道電力、東京電力など）とは別の特定規模電気事業者のこと。

町長 (1) 北電からの連絡や町民からの通報を受け、場合によっては現地確認などを行い、停電区域の規模などを把握している。町として、北電に対し送電網の適切な管理、再発防止を要請した。

問 停電時の対応は問題なかったか
答 要援護者等について個別に訪問するなど、きめ細かな対応に努めた

(2) 電気が必要としない灯油ストーブ 68 台、発電機 19 台、毛布 2258 枚を備蓄している。
(3) 停電の規模、季節などを勘案し、避難所の開設の必要性を判断しており、住民への周知を徹底するとともに、地域との連携を図りながら安全で確実な避難に努めている。災害弱者の支援については、「災害時要援護者名簿」に登録してもらい、災害時に援護を受けられるように体制づくりをしている。
(4) 本町の公共施設の中で、新電力の契約の対象となるのは24施設であり、160万円程度の削減が見込まれるが、安定的に供給が可能ななどの課題があり、音更町などの先行事例等を調査、研究していきたい。

問 暴風雪被害への対応は万全か
答 風の強い時間が長く、1カ所通行止めの対応をとった

2月、町内で暴風雪による吹きだまりが発生し車が立ち往生する等の被害が起きた。H25年3月に道内で9名死亡した大惨事は記憶に新しい。被害を最小限に食い止めるため、安全を守るため以下伺う。

- (1) 今回の暴風雪発生状況、対応。
- (2) 吹きだまりの危険性がある道路の把握、防雪柵等の設置状況。
- (3) 暴風雪情報の周知、通行規制の判断。
- (4) 救助体制（休日含む）。

町長 (1) 2月13日の降雪の後、14日から16日にかけて強風が吹き荒れ、特に15日には最大瞬間風速21・8メートルが記録された。この間、町道の吹きだまりを除去する除雪作業を行った。
(2) おおむね82路線、117カ所で発生しやすい状況があり、町道の防雪柵は、幕別音更線、途別豊岡線、中里2線の3路線に合計で約770メートル設置している。
(3) 昨年からホームページのアイコンを新たに設けてアクセスしやすく改

善したほか、登録メールで住民へ知らせている。通行規制については、気象条件や道路パトロールにより道路状況を判断し、通行に支障がある場合に行っている。
(4) 除雪業者を含めた町と警察署、消防署の救助班が相互に連携して救助に向かう体制となっており、休日も同様の体制である。

再質問 (1) 北電の送配電網の整備と強化の要請は。
(2) 足の不自由な方や医療機器使用の方の対応、体制は。
(3) 救出に向かう際の人員確保、連携は。

答 (1) 電力会社における送電網設備全般の中で検討されるもの。
(2) 足の不自由な方は広報車で避難所へ運び、呼吸器使用の方には連絡をとるなどした。
(3) 状況によって人員をそろえる。



通行止めになった古舞4線